



第2回清瀬市公共施設再編計画市民検討委員会 公共施設再編に関する考え方(おさらい)

2018年9月12日

目次

1 . 清瀬市の公共施設の現状と課題・方向性	3
------------------------	---

2 . 公共施設再編に関する考え方(案)	10
----------------------	----

1. 清瀬市の公共施設の現状と課題・方向性

この検討委員会における「公共施設」とは、いわゆる「ハコモノ」と呼ばれる市が持つ建物施設を指します

(1) 「公共施設」とは

建物施設
(ハコモノ)



市庁舎



地域市民センター



小中学校



図書館

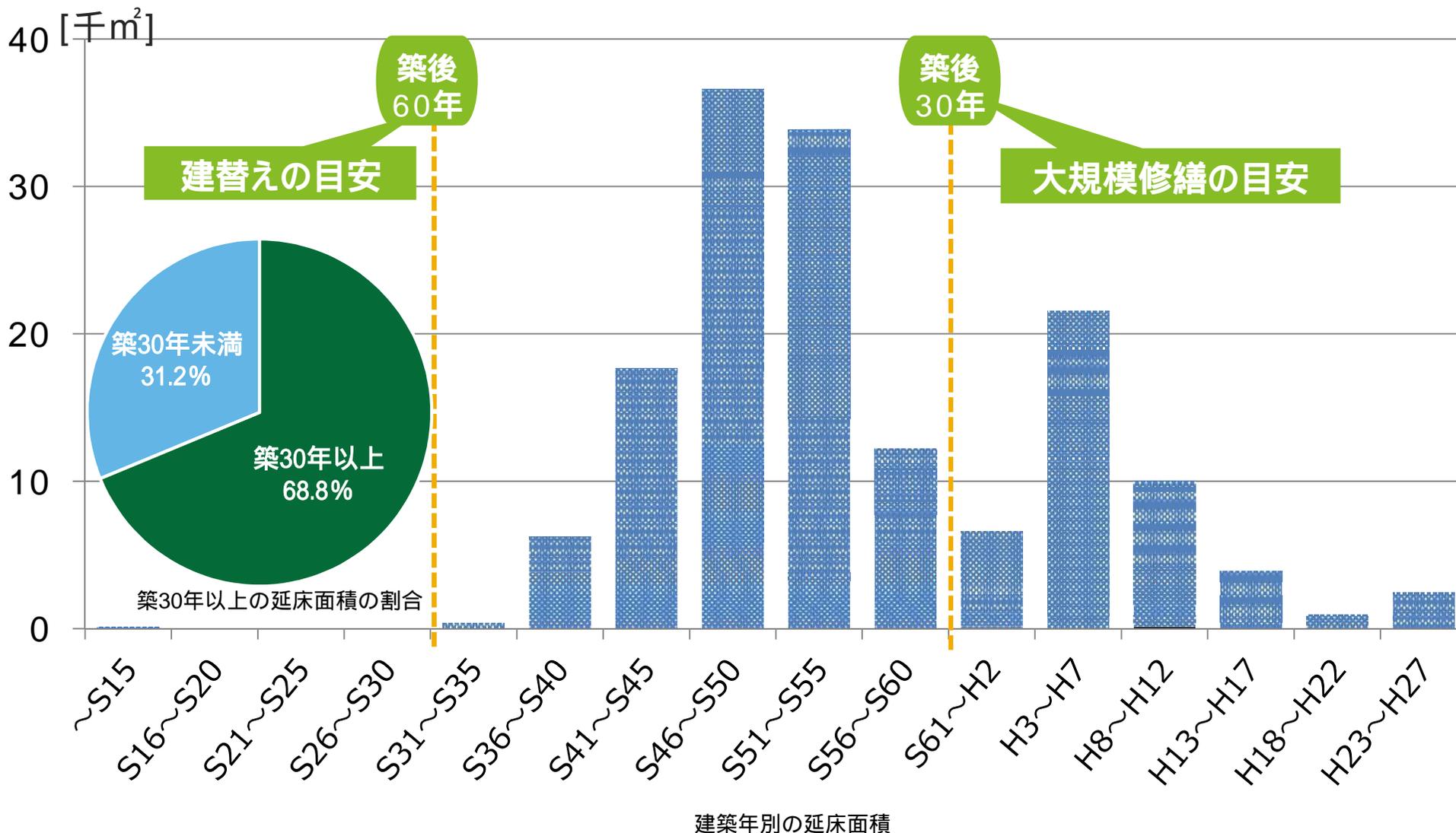


保養施設

など

清瀬市の公共施設には、大きく3つの課題があります その一つが、建物の老朽化です

(2) 清瀬市の公共施設の課題 (建物の老朽化)



平成28年2月「清瀬市公共施設等総合管理計画(公共施設白書編)」より

清瀬市の公共施設には、大きく3つの課題があります
二つ目が、市民ニーズの変化に公共施設が必ずしも対応しきれていないことです

(2) 清瀬市の公共施設の課題 (市民ニーズの変化)

利用者ニーズの変化



- 人口減少
- 少子化・高齢化 (市民の年齢構成の変化)
- 地域コミュニティの必要性の高まり 等

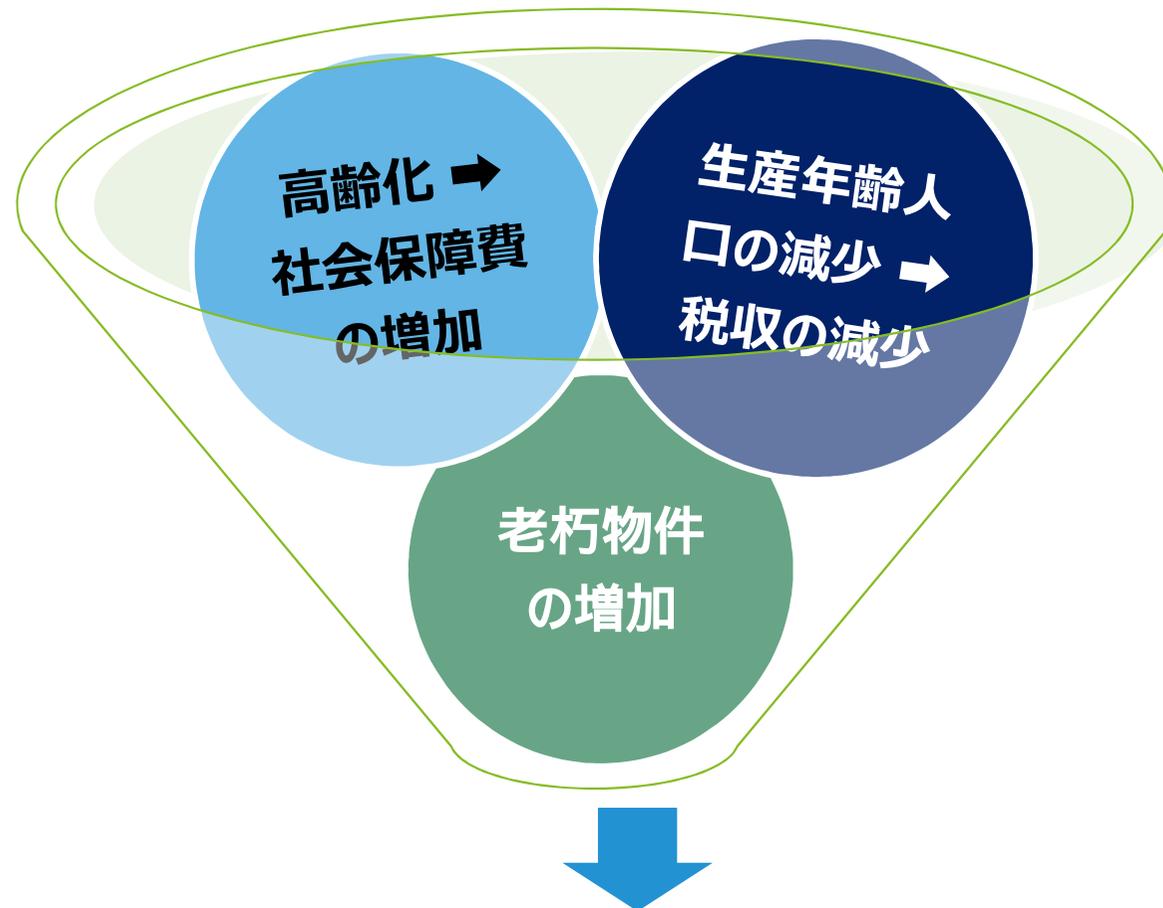


市民サービスとしての公共施設の
数、大きさ、使い方、配置の再検討が必要

清瀬市の公共施設には、大きく3つの課題があります

3つ目は、財政上の制約により公共施設の整備・維持の財源が減少していることです

(2) 清瀬市の公共施設の課題 (市の財政問題)



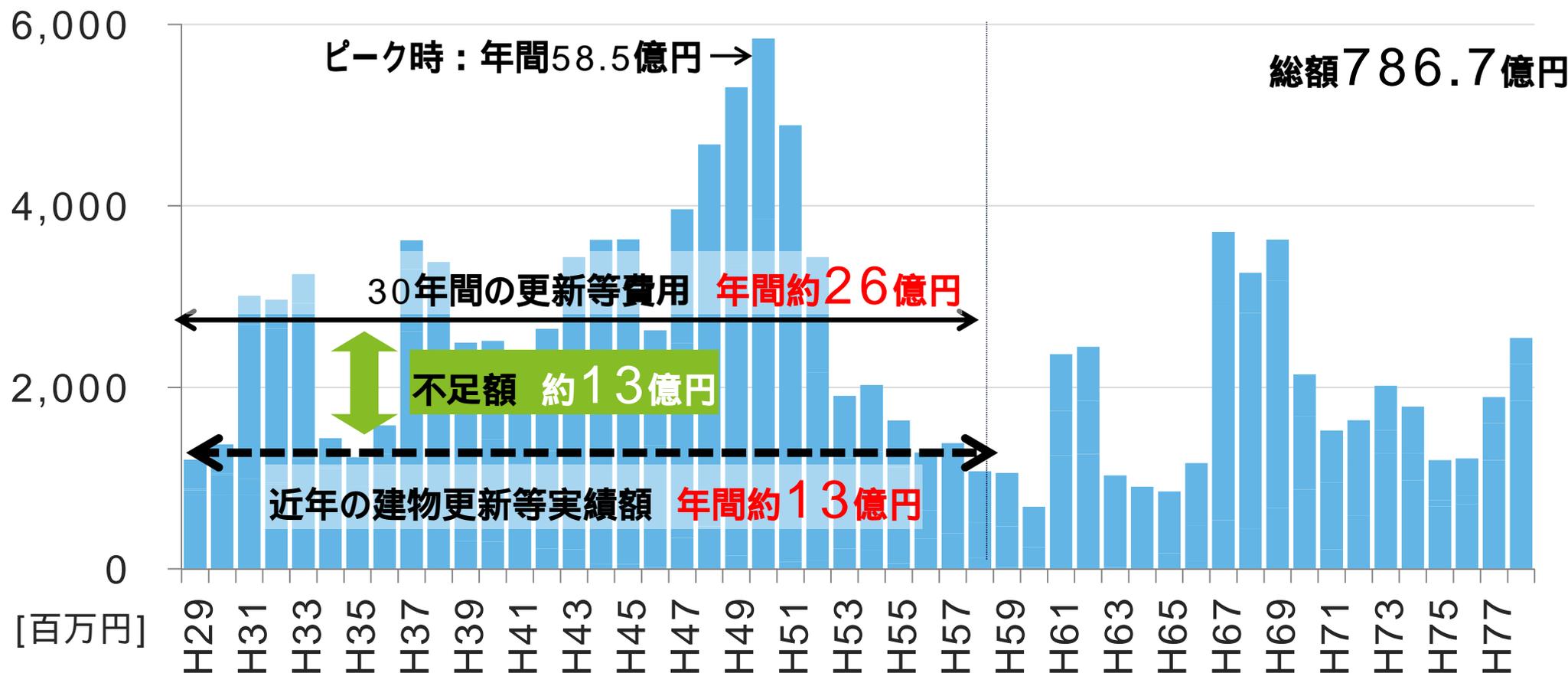
公共施設の整備・維持に使える財源が減少

3つの課題をまとめると、市民のニーズの変化や老朽化に対応し、修繕や建替えが求められますが、財政的制約があり、修繕費や建替え費が不足する状況にあります

(2) 清瀬市の公共施設の課題 (まとめ)

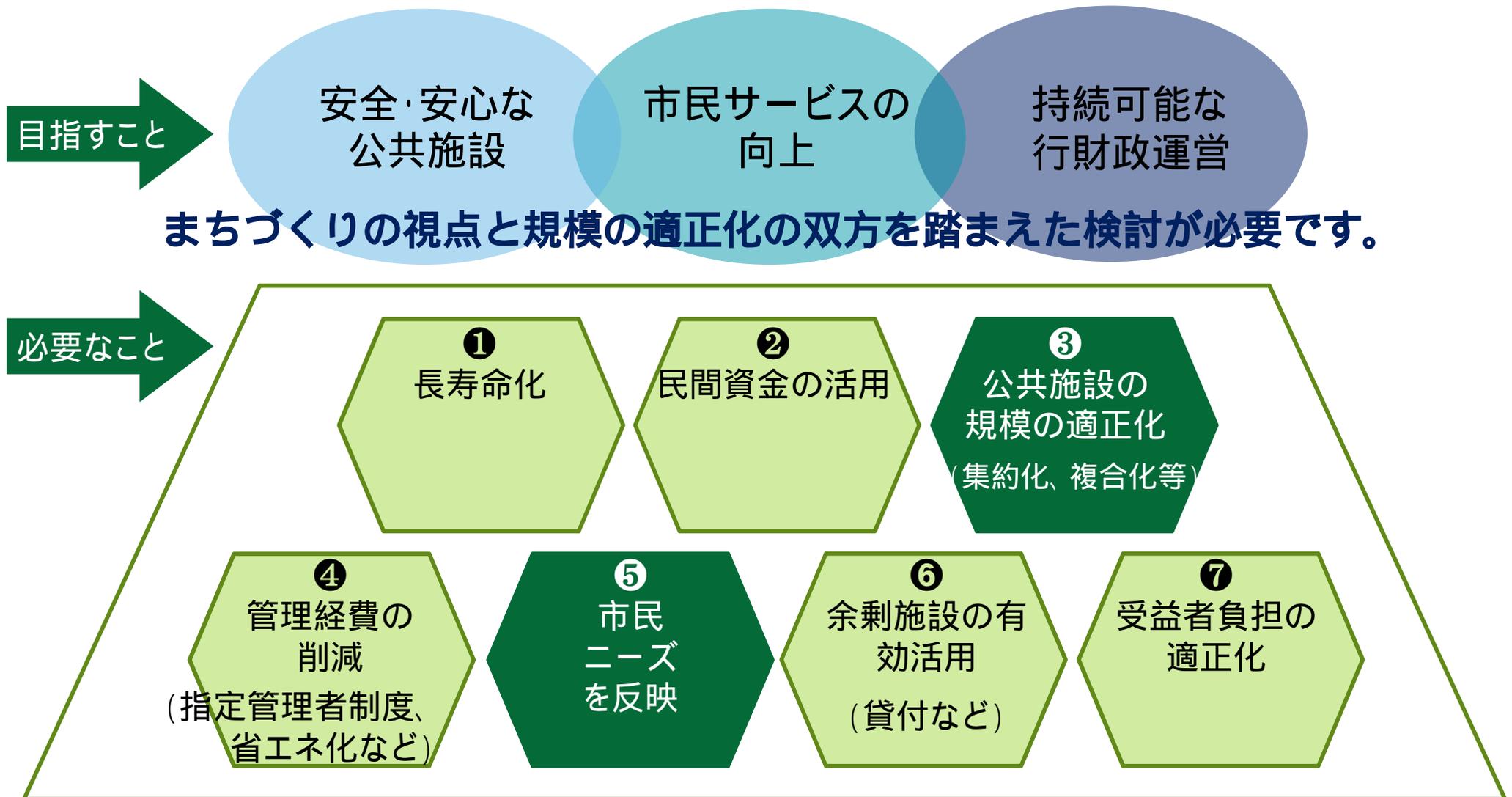
保有施設・インフラを全て維持

今後30年間で786.7億円 (年間約26億円)



市では、「安全・安心」「サービス向上」「持続可能な行財政運営」を目指しています
その一環で「市民ニーズを反映」した「公共施設の規模の適正化」を考えています

(3) 清瀬市の公共施設の方向性



2. 公共施設再編に関する考え方(案)

「市民サービスの向上」と「公共施設の延床面積削減」の両立が基本的考え方です 全市レベル、地域レベルでの“拠点の形成”が基本となります

(1)前提となる考え方の整理

公共施設再編の基本的な考え方

- 市民が生涯住み続けられるまちであるために、コミュニティの維持・活性化と公共施設の接続可能性の両立が求められます。
- 床面積の削減と行政サービスの向上という、一見相反する事項の両立を達成し、市民合意を図る必要があります。

【まちづくりのポイント】

生涯住み続けられるまち(子育て、教育、地域・コミュニティの維持・活性化)
効率的な投資による持続可能な都市経営

【公共施設マネジメントのポイント】

持続可能な公共施設マネジメントのため、複合化・集約化が必要
学校、コミュニティ施設などを中心とするまちづくりと連動した公共施設再編の考え方が必要

具体的な再編の考え方

- より良い市民サービスへの向上と延床面積削減の両立のため、公共施設の拠点化を目指していきます。
- 拠点は、「全市レベルの拠点化」と「地域レベルの拠点化」の2つの階層で構成されると想定しています。

課題1

コミュニティの再形成・活性化、多世代交流など、市民サービスをいかにより良いものに向上させていくのか

課題2

持続可能で安全な行政サービス提供のために、いかに公共施設の延床面積を削減するのか

図 まちづくり及び公共施設マネジメントのポイントと再編の課題

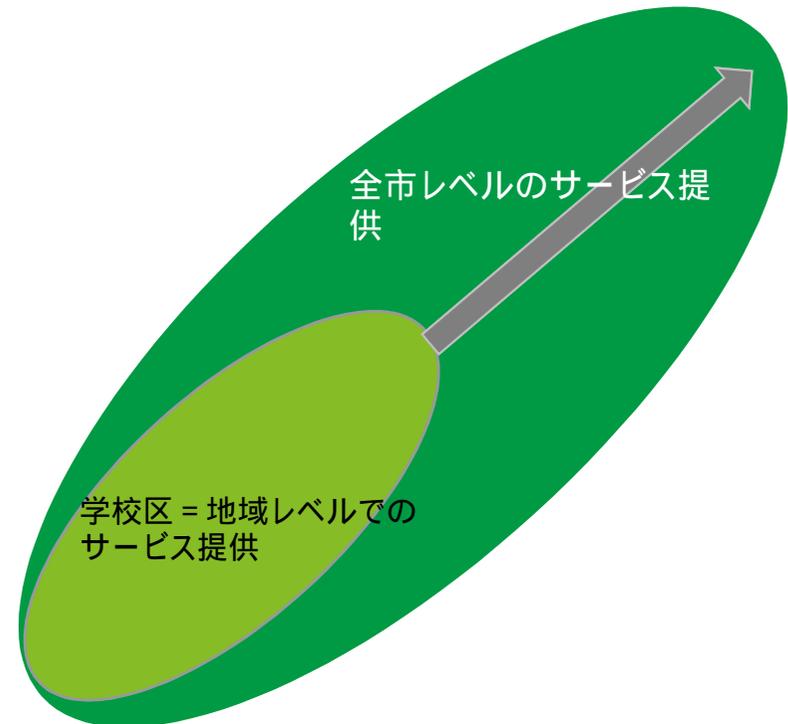


図 全市レベル、地域レベルでの拠点形成による公共施設再編

全市レベルの公共施設は、可能な限り4つの拠点に集約することで、市民がワンストップで様々な行政サービスを受けられるよう図ることを目指します

(2) 全市レベルの公共施設再編の考え方

全市レベルの施設の考え方

- 公共施設が持つ多様な機能は可能な限り集約化します。
- これにより、「床面積の削減」と、利用者のワンストップでの行政サービス享受といった「利便性の向上」を図ります。

例えば…

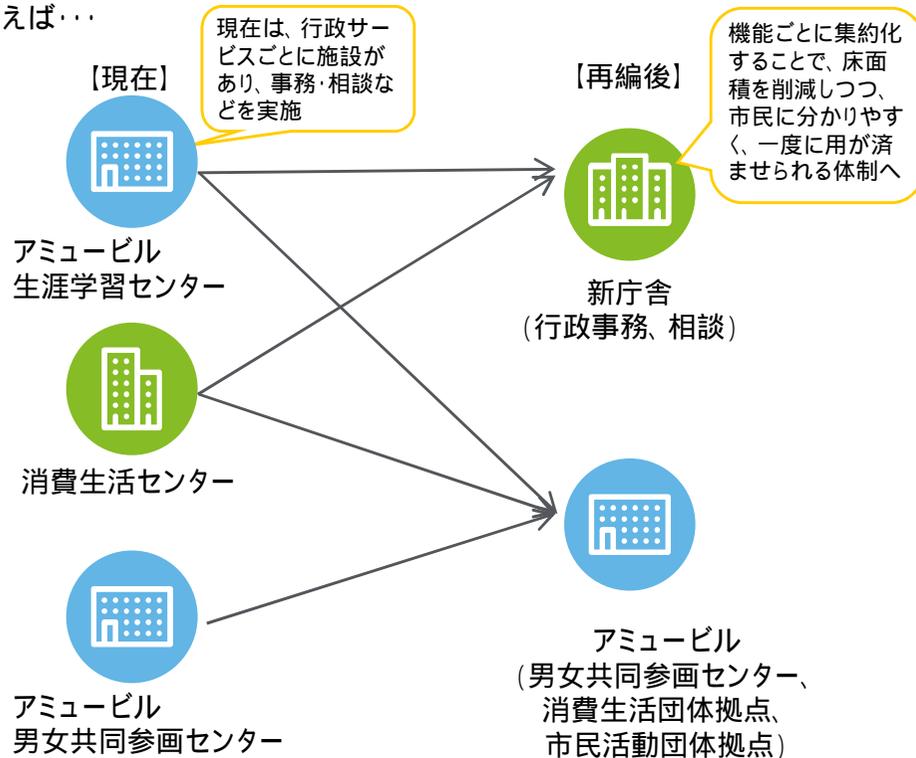


図 全市レベルの施設の再編の考え方イメージ

全市レベルの施設の機能面からの必要性の検討

- 全市レベル公共施設は、概ね4つの地域に集約していくことを想定します。
- 集約にあたっては、利用者利便性を考慮し、可能な限り関連する施設同士が近くに立地するよう図ります。

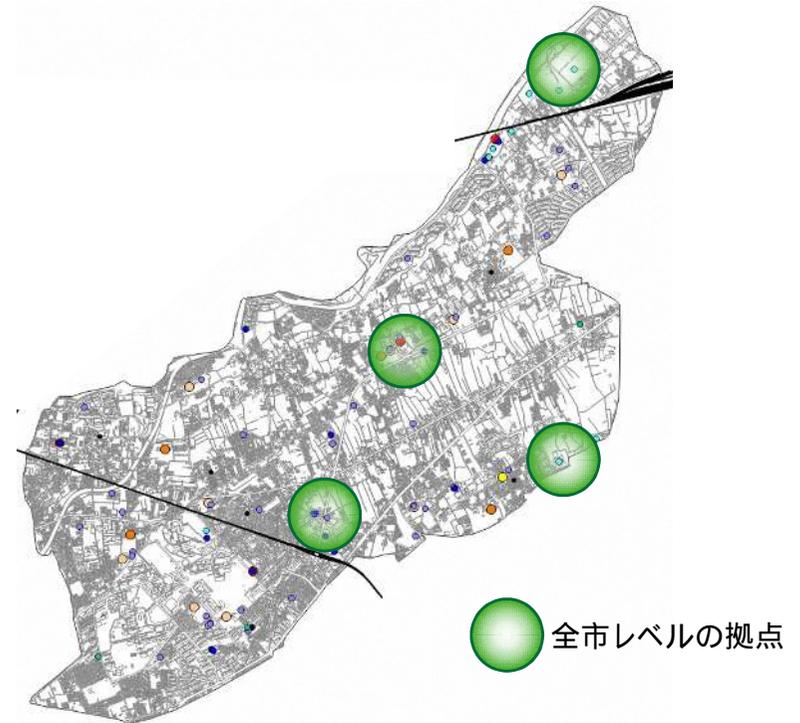


図 全市レベルの機能ごとの拠点の位置づけ